

発掘から見る

たまなの歴史【概要版】

【お問い合わせ】

玉名市教育委員会

文化課文化財係

TEL.0968(75)1136

bunka@city.tamana.lg.jp

～開発のはざまで、見えてきた過去～

玉名市内には、古代から現代に至るまで約 900 か所の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）があり、県内でも多い地域です。これらの遺跡は長い間、地下に埋もれていましたが、その土地で開発が計画されると、住宅や道路建設工事に伴い記録保存のための発掘調査を行います。これまで市内で実施された主な発掘調査成果をもとに、玉名の歴史を見てみましょう。

■ 旧石器時代

約 1 万 3000 年前まで

玉名市内においては、旧石器時代の明確な遺構は発見されていません。しかし、以前から黒曜石のナイフ形石器が岱明町の備中遺跡、今泉遺跡などから表採されている例がありました。

動物などを追って、狩猟をしながら野山を駆けめぐっていたと考えられます。

また、開発に伴い発掘調査した寺田の吉丸前遺跡や立願寺の糠峰遺跡からも三稜尖頭器が出土しています。現在のところ、築地（築地館跡3点、南大門遺跡 1点）、寺田（吉丸前遺跡 2点）を中心に石器が発見されています。

狩人の痕跡



吉丸前遺跡
（寺田）



糠峰遺跡
（立願寺）



築地館跡・南大門遺跡
（築地）

市内出土の旧石器時代の石器

■ 縄文時代

1 万 3000 年前～紀元前 5 世紀

縄文時代は狩猟・採集を中心とした生活ですが、縄文時代後期以降になるとある程度の期間、集落が形成されていたようです。

玉名市内においては寺田の吉丸西遺跡において円形の竪穴建物跡が 35 基出土しています。貝塚も多く、天水町の尾田貝塚（市史跡）は、市内最大規模で、阿高式土器などと共に骨角器も出土しています。また、土偶や石棒、勾玉など信仰の遺物なども発見されています。

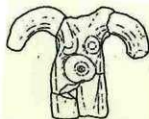
狩猟採集と祈りの生活



勾玉（年の神遺跡）



石棒と土偶（吉丸前・小上田宮の前遺跡）



（熊本県報告書より）



塚原遺跡出土の縄文土器・石器



骨角器（尾田貝塚）



市内における主な貝塚の分布

■ 弥生時代

紀元前 5 世紀～3 世紀頃



齊藤山貝塚出土の鉄斧（複製）

天水町の齊藤山貝塚からは日本最古級の鉄器が出土し、両泊間日渡遺跡からは弥生時代中期頃の水田跡が検出され県内最古とされています。このように有明海沿岸に位置する玉名は早くから稲作や金属器の文化があったことが想定されます。また支石墓や甕棺といった墓制が導入され、北部九州や筑後地域などの交流があったことがうかがえます。



両泊間日渡遺跡の水田跡（杭列）

本格的な米作りが始まると、玉名でも大きなムラができてきます。そして、ムラの首長も存在していたと考えられています。

年の神遺跡では、奄美・沖縄の海でしか採れない、当時としては貴重な貝でつくられたアクセサリーなどが出土しており、有力者が出現してきたことを物語っています。

稲作の開始と有力者の出現



塚原遺跡の甕棺墓



年の神遺跡出土のゴホウラ貝製腕輪



大原遺跡出土の青銅器と鉄器（弥生時代後期）



ムラはやがて、地域にとって有力な拠点の集落となっていきます。青銅器や鉄器といった金属器の流通が盛んになります。なかでも大原遺跡周辺からは、中国鏡の破鏡をはじめ、多くの青銅器・鉄器が出土しており、有明海沿岸を通じた地域間交流のネットワークがあったことも伺えます。



岩崎原遺跡出土の弥生土器（後期）

■古墳時代

3世紀後半～7世紀頃



3世紀以降、首長たちは土を盛った古墳をつくり始めます。舟形石棺も多くつくられ、瀬戸内海を経由して大阪方面まで運ばれていることがわかっています。また、菊池川下流域には優れた副葬品をもつ伝左山古墳や、装飾古墳として知られる大坊古墳、永安寺東・西古墳、石貫ナギノ横穴群などは国指定史跡となっています。



柳町遺跡出土の木製短甲

大塚古墳出土の舟形石棺

柳町遺跡からは、国内最古級の文字が書かれた木製短甲などが発見されていますが、玉名には大陸の影響を受けた先進的な文化や技術が早くからもたらされていたことがわかります。

そして古墳時代は、身分の差が拡大し、大きな政治力や軍事力を持った豪族が出現してきました。その力を古墳の大きさなどで示しました。

ヤマト政権とつながる、タマナ

経塚古墳出土の
外装付鉄剣



塚原遺跡出土の鉄器、滑石製品など



両泊間日渡遺跡出土の滑石製品



撮影：牛嶋茂

大坊古墳出土の金製耳飾りと永安寺東古墳の石室

両泊間日渡遺跡からは、祭祀遺構が発見され、剣・鏡・玉を模した石製品が多量に出土しています。

これは、中央のヤマト政権と深い政治的な結びつきがあったことを示すものです。

また、大坊古墳出土の百濟製とされる金製耳飾りなどは、朝鮮半島との交流があったことを物語っています。

■古代

7世紀～12世紀頃



飛鳥時代から奈良時代にかけて律令制という国を治める仕組みが整います。現在の立願寺一帯には玉名郡の役所が置かれていたと考えられており、これらを総称して「玉名郡衙」と呼ばれています。郡司は日置氏であったと考えられ、郡寺と立願寺廃寺からは大宰府政庁跡と類似した鬼瓦などが出土していますが、中世の頃に建物礎石などが廃棄されているようです。



立願寺廃寺出土の瓦と礎石など

玉名郡衙には税として納められた米を保管する郡倉があったと考えられており、これまでの発掘調査で掘立柱建物や礎石建物跡が確認されています。実際に炭化米も出土していることから、米倉があった可能性があります。また、玉名平野からは古代とみられる水田跡と共に、水路に架かる木橋も発見されています。一帯には条里制に伴う水田が広がっていたとも考えられるのです。



立願寺廃寺出土の鬼瓦

日置氏と地方行政のはじまり



玉名郡倉跡出土の炭化米



玉名平野遺跡群の水路で出土した木橋



玉名郡倉跡出土の須恵器（大甕）



玉名郡倉跡の掘立柱建物跡



「川上」銘の須恵器

■中世

12世紀～16世紀頃

武家政権となり、それぞれの地域で勢力をもっていた武士が登場し、自分たちが支配する領地に城館を構えます。中世の城は、土壘や堀で囲って築かれました。玉名では大野別府を根拠地とした大野氏に關わる館跡が多く確認されています。文献などから、一族の館が分散していたようですが、よくわかっていません。これまで、岩崎城や築地館跡、高岡屋敷跡、中村館跡などの調査で、堀や掘立柱建物跡が確認されています。



中世居館の高岡屋敷跡（山田）



岩崎城跡の土壘と堀跡



中ん城跡出土の土師皿



寿福寺跡出土の中国産陶器



城館と共に大きな力をもっていたのが寺院などです。築地の浄光寺は勢力を誇った寺院で、一時は大野氏の菩提寺ともなっていました。

南大門遺跡からは、門に置かれていた鬼瓦や軒丸瓦などが多量に出土しています。また、各地の城館跡周辺からは土葬された墓が見つかり、輸入された陶磁器も出土しています。



六反製鉄跡に残る炉



南大門遺跡出土の鬼瓦・軒丸瓦



蓮華遺跡出土の青磁碗・瓦器碗など



吉丸前遺跡の中世壘

大野一族の繁栄と多くの城館跡

■近世～近現代

約 200 年前～現在

江戸時代になると、水運の拠点となる船着場や米蔵が永徳寺に造営されます。高瀬は最盛期を迎え、多くの商家や倉が並び、肥後五ヶ町として栄えました。高瀬本町通遺跡や高瀬御蔵・御茶屋跡の調査では当時の礎石などが確認されています。幕末になると、岩崎の高台に高瀬藩の藩邸や家臣団屋敷がつくられました。武家屋敷跡の調査で、醤油甕やキセル、家老屋敷跡では、井戸跡などが見つかっています。



▲高瀬藩邸（家老屋敷）跡の井戸



高瀬本町通遺跡の西南戦争に伴う焼土層



高瀬官軍墓地で検出された墓坑と銃弾



高瀬出土の陶磁器



高瀬御茶屋跡の礎石跡

明治になると高瀬藩は廃止され、玉名も近代化へと進みます。明治 10 年の西南戦争で高瀬の町は戦いに遭いますが、実際に真っ赤に焼けた焼土層や焼けた瓦、炭化米なども検出されています。高瀬官軍墓地では、墓塚が確認され人骨と共に銃弾などが発見されました。

昭和 20 年の太平洋戦争時には、大浜に飛行場が整備され、大型格納庫跡の調査で、コンクリート建物の基礎構造が判明しました。

玉名の近代化、そして戦争



大浜飛行場（大型格納庫）に残る爆撃痕



大浜飛行場（大型格納庫）跡の基礎調査

■発掘からみる 玉名の歴史 【概要版】

令和 6 年 3 月発行 玉名市教育委員会 文化課

熊本県玉名市岩崎 163 TEL: 0968-75-1136